

平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 7

主要事業名	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発言	作成日	H26.6.24
		担当	部名 教育委員会・市民協働部
		課名	教育総務課・生涯学習課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(1) 郷土理解教育の推進
個別施策	① 地域資源や地域人材の活用 ② 伝統文化の保護と継承

2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。
	郷土に残る伝統文化や行事に触れる機会として様々な事業を展開し、伝統文化の保存と継承につなげ、さらには新しい文化の形成や豊かな人間関係を構築する。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	・ 史跡巡りで歴史にふれ、知識を見に付ける。また、外国人からその国の言葉や文化を学ぶ。
	・ 語り部の会による出前講座の実施と舞踊連盟による祭り等での普及活動の実施
	・ 塚原ト伝紙芝居の完成 ・ 郷土検定の問題作成

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市民	規模

予算科目コード	会計	01 款	10 項	05 目	01 事業名	文化事業						
						24年度 (決算額：千円)	25年度 (決算額：千円)	26年度 (予算額：千円)	27年度 (計画額：千円)	28年度 (計画額：千円)	29年度 (計画額：千円)	
投入コスト	全体計画											
	事業経費	鹿嶋子ども歴史探検隊、ふれてみよう世界の文化事業					136	136	298	298	298	298
		鹿島の民話語り、市民音頭普及事業					80	80	80	80	80	80
		塚原ト伝紙芝居制作事業					0	1,750	0	0	0	0
		展示營業務委託					0	466	466	466	466	466
		ミニ博物館管理運営業務委託					6,027	6,101	6,044	6,044	6,044	6,044
		いばらぎっ子郷土検定事業					0	6	6	6	6	6
		合計					6,243	8,539	6,894	6,894	6,894	6,894
	財源内訳	国県支出金										
		地方債										
その他(参加者負担金)												
一般財源					6,243	8,539	6,894	6,894	6,894	6,894		
従事職員数	正規職員					4	4	4	4	4	4	
	その他職員					3	3	3	3	3	3	

根拠法令	教育基本法 教育の目標（2条）
------	-----------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	自治事務(任意)	<input type="radio"/> 市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	<input type="radio"/> 年度繰返し	期間限定	<input type="radio"/> 建設事業	その他
				年度から	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	教育基本法第2条第5号の規定により、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこととしている。茨城県では、「いばらぎっ子郷土検定」事業を、県内中学2年生を対象に実施した。鹿嶋市においても、市内中学校で一斉に行い、代表校として鹿野中学校が県大会に出場した。

3 具体的施策評価

鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発言

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標 数値目標	インプット 必要性	アウトプット 執行段階の効率性	アウトカム 有効性	執行工夫・日常業務改善の取り 組み	個別事業実績評価
①文化体験事業(鹿嶋こども歴史探検隊とふれてみよう世界の文化事業)の実施 【比率: 15%】	○鹿嶋こども歴史探検隊 史蹟を巡り歴史に触れ知識を身に付けることにより、鹿嶋市を理解し、郷土に愛着を持ち、郷土の歴史や文化を次代に継承する人材育成を図る。 ○ふれてみよう世界の文化 外国人講師と触れ合うことにより、コミュニケーション能力を培う。	○子ども達が鹿嶋市を理解し、郷土に愛着を持ち、郷土の歴史や文化を次代に継承していく必要がある。 ○コミュニケーション能力を培い、国際化時代に対応できる人材の育成を図る必要がある。	○小学4・5・6年生11人参加、6回実施。昨年度に引き続き参加した児童4人。 ○小学3・4年生17人参加、5回実施。 【目標達成度】 ○アンケート実施(楽しかった・歴史に興味を持った⇒共に100%) ○5か国の講師からその国の言葉や食文化について学んだ。	○歴史に興味を持ち次代に継承する人材育成が図られた。 ○それぞれの国の文化を知り、日本との違いを学び、国際社会に対応できる人材育成が図られた。	○市内の史跡巡りや本市に関連の深い地域の史跡を巡り、歴史と文化に対する興味を持ち、楽しく学べるよう努めた。 ○関係者の連携を密にし、事前協議に努め、興味深いプログラムの作成に努めた。	個別事業実績評価点: 15 ○参加者の中には、リピーターはいるが、参加人数でいうと増えない状況がある。開催時期やプログラムの更なる検討に努め、参加者の拡大を図る。 ○3・4年生を対象として行っているが、参加者の中には来年も参加したいとの意見が出された。年齢拡大も視野に入れ検討する。
②鹿嶋の民話・市民音頭の普及 【比率: 15%】	○語り部出前講座実施回数前年度比同数開催(前年度38回) 地域の歴史や風俗などの保存継承を図る。 ○市民音頭普及回数前年3回開催 郷土愛や地域連帯感の醸成を図る。	○地域の歴史や風俗などこれらの文化を子々孫々に伝えていくことは、今に生きる私たちの責務である。これらを保存継承する必要がある。 ○子どもから高齢者まで誰もが親しむことにより、郷土愛や地域連帯感が生まれ、市民社会の活力を与えるために必要である。	○語り部講座は45回開催 ○3回の普及活動 【目標達成度】 ○学校や幼稚園でも普及活動を行い郷土理解、郷土愛、郷土への誇りを醸成した。 ○郷土愛や地域連帯感が生まれ、市民社会の創造につなげることができた。	○多くの市民(子ども達)が方言による鹿嶋の民話を聞き、鹿嶋に伝わる言い伝えや方言にふれる機会を得た。 ○子どもから高齢者まで誰もが誇りを通して親しみ、交流することができた。	○語り部の会との連携を密にして、FMラジオでの啓発活動にも取り組んでいく。語り部養成講座を6回行い語り部の育成にも努めた。 ○市内の史跡巡りや本市に関連の深い地域の史跡を巡り、歴史と文化に対する興味を持ち、楽しく学べるよう努めた。	個別事業実績評価点: 15 [課題] ○語り部として若手の育成が今後の課題である。引き続き養成講座の取組に努めていく。
③塚原ト伝紙芝居の制作 【比率: 20%】	・塚原ト伝紙芝居制作実行委員会の開催(4回) ・専門部合同会議(原画制作部・語り制作部)3回 ・紙芝居100部印刷 郷土への誇り、愛着を深め、文化や歴史を後世に伝える。	紙芝居を通して鹿嶋の偉人「塚原ト伝」を市民、特に子ども達に伝えることにより、郷土への誇り、愛着を深めていくことが必要である。	表紙絵1枚と本文絵15枚の紙芝居が完成。 【目標達成度】 ・印刷部数を100部から200部に増刷し、市内幼稚園・保育園・小学校・図書館や公民館へ配布。	子ども達に郷土への誇りと愛着を深める機会の提供ができた。	・子ども達に分かりやすい紙芝居にするため、専門部による協議を重ねた。 ・紙芝居の規格をB4サイズからA3サイズに変更し見やすいものとした。	個別事業実績評価点: 20 [課題] 普及活動の充実 ・読み聞かせ会 ・FMラジオでの啓発 ・活用調査等の実施
④はまなす郷土資料館及びどきどきセンターの展示活発化 【比率: 15%】	・どきどきセンターでの企画展の開催 ・はまなす郷土資料館の展示内容の更新 企画展示等を実施し、市民が歴史文化を学ぶ機会を提供する。	博物館等の学習施設・社会教育施設の代替として、鹿嶋の歴史や文化を学ぶための場として必要である。	市民への啓発活動として鹿嶋の歴史文化の周知を、企画展示等を通して実施。 【目標達成度】 企画展「鹿島神都」実施 上記の移動展実施(大野ふれあいセンター、勤労文化会館)	鹿嶋の歴史文化を学ぶ拠点として、企画展示等を実施し、市民が歴史文化に触れる機会を提供できた。	実際に調査で発掘された実物の資料や写真を使い、見て分かりやすい展示を行った。また、市内を巡回展示し、市民が見学できる機会を多くした。	個別事業実績評価点: 11 [課題] どきどきセンターの場所は交通の便が悪く、訪問者が少ない。はまなす郷土資料館は展示資料が古く、内容の大きな更新が必要である。
⑤ミニ博物館コソシカの健全運営 【比率: 30%】	・ミニ博物館の運営とテーマ別の展示の開催 ・企画展の開催や展示内容の充実 鹿嶋を訪れる観光客や市民に対し、鹿嶋の歴史文化を周知する。	鹿島神宮の参道という立地を活かし、鹿嶋を訪れる観光客や市民に対し、鹿嶋の歴史文化を周知するため企画展示等を実施する必要がある。	企画展「鹿島神都」、「祭頭祭」実施。 【目標達成度】 企画展示の開催や常設展示と書架の充実	鹿島神宮の参道という利便性もあり、観光客や市民が鹿嶋の歴史文化について学ぶ一つの拠点となった。	県の事業と連携した展示や、祭りで使用される衣装を実際に着用できる場を設けるなど、効果的に鹿嶋の歴史や文化に触れられる内容にした。	個別事業実績評価点: 30 [課題] パネルによる文字解説中心の展示は内容が難しいという意見もあり、より分かりやすい展示内容を考えていく必要がある。
⑥普及と発信のための参加しやすいイベント開催 【比率: 5%】	いばらきっ子郷土検定事業(市大会の実施) 子どもたちに歴史や文化に触れる機会を提供し、郷土理解を深める。	子どもたちは、急激な社会構造の変化とともに、地域との関わりや地元への愛着心が希薄化する傾向にあり、郷土を知り関心をもつ機会が必要である。	市町村大会を開催し鹿野中学校が代表校として県大会に出場した。 【目標達成度】 郷土への関心が深まる機会となった。	歴史や文化に触れる機会を提供することができた。	市問題の作成(50問)について、鹿嶋市の歴史や文化に深く興味を抱くような問題作成に努めた。	個別事業実績評価点: 5 [課題] 次年度に向けた問題の作成。

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	95.5	A:合計点数が80点以上 B:合計点数が65点以上80点未満 C:合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 郷土に残る伝統文化や行事は、そこに生活する人々にとって、新しい文化の形成や豊かな人間関係を構築するうえで重要である。そのため、鹿嶋市の伝統文化に触れる機会として、様々な事業による普及活動を実施した。更に、今年度は、鹿嶋の偉人である「塚原ト伝」を市民、特に子ども達に伝えることにより、郷土への誇り、愛着を深めるとともに、次代に語り伝える後継者育成のため「塚原ト伝紙芝居」を制作した。また、市施設での企画展等により、市民をはじめ鹿嶋市を訪れる人々へ鹿嶋の歴史文化に触れる機会を提供した。				
	継続・休止の理由	継続	理由	鹿嶋市の持つ貴重な文化財や伝統文化の周知を通じて、郷土理解と郷土愛、郷土への誇りを醸成するためこれらの事業は継続していきたい。		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・様々な事業への参加者拡大を図るためのさらなる工夫が必要である。 ・民話や紙芝居の普及活動を進めるうえで、語り手の育成が重要な課題である。				
	改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・事業別の課題を検証し、参加者拡大のための方策を検討する。 ・語り部の養成講座を開催する。				

平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 8

主要事業名	英語教育の充実	作成日	H26.6.30
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育て課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2)	国際理解教育の推進
個別施策	①	小中学校での英語教育の充実

2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。
	英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、日常生活で自らすすんで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点にしている。 中学生は、小学校で慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力向上に努める。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	・小学校全校への外国人講師（NLT）、中学校全校への英語指導助手（ALT）の配置
	・小学校英語活動カリキュラムとコミュニケーション英語カリキュラムの実施 ・英語科教員研修会及び訪問指導の充実

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	小学生及び中学生	規模

予算科目コード		会計	01	款	10	項	01	目	04	事業名	英語指導事業経費					
		全体計画									24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
											(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費	指導業務委託（小学校）									63,224	63,224	63,224	63,224	63,224	63,224
		うち人件費									47,553	47,553	47,553	47,553	47,553	47,553
		諸経費									5,089	5,089	5,089	5,089	5,089	5,089
		運営費									10,036	10,036	10,036	10,036	10,036	10,036
		研修費									546	546	546	546	546	546
		英語教材業務委託（小学校）									15,506	15,506	15,506	15,506	15,506	15,506
		指導助手委託（中学校）									21,325	21,325	21,325	21,325	21,325	21,325
	合計									100,055	100,055	100,055	100,055	100,055	100,055	
	財源内訳	国庫支出金														
		地方債														
その他(参加者負担金) 一般財源									100,055	100,055	100,055	100,055	100,055	100,055		
従事職員数	正規職員									2	2	2	2	2	2	
	その他職員															

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス		管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	○	その他
							年度から		年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、英語力の向上は教育界のみならず産業界など様々な分野に共通する喫緊かつ重要な課題である。現在、中学校・高等学校では、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける教育が行われており、昨年度は高等学校におけるオールイングリッシュの指導がスタートし、今後は中学校においてもオールイングリッシュでの指導が求められるようになる。市において実践しているこの小学校6年間の英語活動の時間及び中学校3年間のコミュニケーション英語の時間は、国際的に通用する基礎的な実践的コミュニケーション能力の意図的な育成の場となっているものである。また、指導にあたっては、学習指導要領においてネイティブ・スピーカーの活用が明記されており、今では殆どの自治体が英語指導助手による英語教育を取り入れている。

3 具体的施策評価

英語教育の充実

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標 数値目標	インプット 必要性	アウトプット 執行段階の効率性	アウトカム 有効性	執行工夫・日常業務改善の取り 組み	個別事業実績評価
①小学校全校に外国人講師(NLT)、中学校全校に英語指導助手(ALT)を配置 【比率: 20%】	ネイティブとの会話経験を積み重ねることにより、臆さずに英語を話したり聞いたりできる基礎的な実践的コミュニケーション能力を育成するため、市内全小中学校へNLT・ALTを配置する。	臆さずに英語を使い実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成するためには、異文化であるネイティブの指導が不可欠である。	市内全小中学校へのNLT・ALTの配置 [目標達成度] 計画通り全校配置 評価: B	・もっと英語を話せるようになりたいと感じている児童の割合93%(昨年度より1%増) ・茨城県インタラクティブフォーラム鹿行地区大会における入賞率は5市のうちトップ 施策の有効性評価: A	児童生徒にネイティブと英語でコミュニケーションをとる楽しさをより感じさせるため、日常的に子どもたちと触れ合うよう外国人講師に助言した。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 18 [課題] 外国人講師の指導力向上
②小学校全学年において市独自の英語カリキュラムで英語活動を実施 【比率: 20%】	質の高い英語カリキュラムを小学校全学年に導入し、英語活動を実施する。	英語教育の質の保障を図るためには、より効果的なカリキュラムを導入し、市内全小中学校で実施する必要がある。	市独自のカリキュラムによる指導の完全実施 [目標達成度] カリキュラム通り全校実施 評価: B	・英語を話すことは楽しいと感じる児童の割合 83%(前年度より2%増) ・児童英検83.6%(全国の教育課程特例校等の平均より高い結果) 施策の有効性評価: A	円滑にカリキュラムが進められているかどうか、各校の進捗状況を確認しながら進めた。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 18 [課題] 児童の実態や興味・関心に合わせたカリキュラムの改善
③中学校における英会話を中心とした「コミュニケーション英語」カリキュラムの実施 【比率: 20%】	小学校で培った英語コミュニケーション能力をさらに伸ばすために、市内全中学校において週1時間英会話を中心とした「コミュニケーション英語」を実施する。	小学校で培った英語コミュニケーション能力をさらに伸ばすためには、中学校においても英会話を中心とした活動を意図的に行う必要がある。	市内全中学校におけるコミュニケーション英語カリキュラムの作成及び実施 [目標達成度] 全中学校実施 評価: B	・中学校3年生において英検3級レベルが約3割 ・学力診断テストの正答率は昨年度よりは向上しているが、県平均には満たない。 施策の有効性評価: C	ALTの指導力向上を図るための研修会を実施し、授業の質の向上を図った。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 14 [課題] 英語科の年間指導計画との関連を図るためのカリキュラムの見直し
④小中英語科担当者による英語教育研修会の実施 【比率: 20%】	指導力向上のための小中英語科担当者による英語教育研修会を年間11回実施する。	指導力向上に特化した研修を受けることや英語教育の質の向上を図るための協議会を行うことは、教師の指導力向上において重要である。	・英語教育推進協議会、指導力向上研修会、コミュニケーション英語推進協議会他 合計11回の研修会の実施 [目標達成度] 計画通り実施 評価: B	・小中連携を意識した指導の充実 ・効果的な英語科指導法の研修を生かした授業改善 施策の有効性評価: B	教員研修会を計画的に実施するとともに、本市の課題に対する具体的な指導方法について研修できるようにした。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 16 [課題] 英語教育研究部との連携を図った研修会の充実
⑤英語活動及びコミュニケーション英語における訪問指導の実施 【比率: 20%】	全小中学校とも年間2回、英語活動及びコミュニケーション英語における訪問指導を実施する。	実際に授業の様子を把握し、授業改善に向けた指導を行うことや、課題について校内研修を行うことは教師の指導力向上を目指すためには不可欠である。	全小中学校へ年間2回ずつ訪問(合計 小学校24回 中学校10回) [目標達成度] 計画通り実施 評価: B	英語活動及びコミュニケーション英語の指導の質の向上 施策の有効性評価: B	指導を受けたい点や課題等を明確にして教師に授業を公開させ、必要かつ的確な指導が受けられるようにした。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 16 [課題] 訪問指導の内容及び全体会の工夫・改善

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	82.2	A:合計点数が80点以上 B:合計点数が65点以上80点未満 C:合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 2020年に向け文部科学省が英語教育の方向性を打ち出す等、「国際的に通用する実践的コミュニケーション能力」を身に付ける英語教育は将来的にも必要不可欠である。小学校においては、質の高いカリキュラムに基づく指導が各校とも同様に実施されているため、他市に比べ英語教育の質が確実に保障されており学校による差も生じていない。また、中学校においては外国人講師の効果的・有効的活用がなされ、授業公開時には他市からの参観依頼も多い。				
	継続・休止の理由	継続	理由	今後、グローバル化に対応できる人材の育成はさらに重要であり、継続して英語教育を推進して行く必要があるため。		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 中学校における英語科指導の質の向上及び4技能を総合的に育成する指導の工夫改善。2020年に向け文部科学省が打ち出した英語教育の方向性と本市の英語教育計画のすり合わせ。				
	改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 中学校において、4技能を総合的に育成する指導の改善・充実を図るための、現行の「コミュニケーション英語」のカリキュラム及び指導法についての見直しを今年度中に行う。2020年に向けた文部科学省の方向性を考慮した本市の新しい英語教育計画を今年度中に策定する。				

平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 9

主要事業名	中学生国際交流事業	作成日	H26.6.24
		担当	部名
		課名	教育委員会 鹿嶋っ子育て課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2) 国際理解教育の推進
個別施策	② 異文化理解と交流活動の充実

2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 将来の鹿嶋市を担う中学生が、小・中学校で学んできた英語を実践しながら、韓国やカナダでホームステイ等を経験することで、日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識し、それらの違がわかり、かつ相手を理解することができる国際人としての感覚を養うことを目的とする。
------	---

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ・ 施策進捗の管理 ・ 派遣先の行程及びホストファミリーの選定 ・ 語学習得のための補助（研修等） ・ 事業の周知と記録
--------	---

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市内中学2・3年生及び保護者	規模
			約1,200人

予算科目コード		会計	01 款	10 項	03 目	02 事業名	中学生国際交流事業						
							24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
							(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	
投入コスト	全体計画												
	事業経費	旅費		141	206	321	254	254	254				
		使用料及び賃借料		18	16	0	0	0					
		負担金、補助及び交付金		3,949	9,386	9,530	9,530	9,530					
		合計		4,108	9,608	9,851	9,784	9,784					
		財源内訳	国県支出金										
		地方債											
		その他(参加者負担金)		700	1,830	1,900	1,900	1,900					
		一般財源		4,108	9,608	9,851	9,784	9,784					
		従事職員数	正規職員	2	2	2	2	2					
		その他職員	0	0	0	0	0						

根拠法令	
------	--

事業の性質		法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス	管理経費
事業期間		単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	その他
								年度から	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 鹿嶋市の中学生国際交流事業は、平成16年度より開始し、今回で10回目の開催となる。 これまで、オーストラリア（カラウンドラ市）・中国（塩城市）・韓国（西帰浦市）と交流を行ってきたが、平成25年度から新たにカナダ（ニューウエストミンスター市近郊）への中学生派遣を実施した。 また韓国西帰浦市とは、平成25年度で姉妹都市締結10年を数え、その間中学生のホームステイ相互交流を6回実施している。 中学生という年代で海外に出るということは、貴重な経験であり、学校及び保護者からも事業の継続が望まれている。
--------------------------	---

3 具体的施策評価

中学生国際交流事業

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り組み	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性		
①国際交流事業実行委員会を組織(年3回の会議開催) 【比率: 10%】	市内6中学校から7人、鹿嶋市国際協力協会から1人、教育委員会から1人の計9人の委員を選出し、西帰浦市交流団受入までに3回、会議を実施し、情報の共有化を図る。	事業行程に対する意見、事業に参加する中学生の選出などを多数の視点から適切に行う必要があり、各学校から選出された委員の意見が必要である。	予定通り年3回の開催に全出席予定者が集まり、議論及び情報共有した。 [目標達成度] 当初の予定通り会議を実施した。 評価: B	各学校から選出された委員がいることで、円滑に事業を実施することが出来た。 評価: A	会議以外でも、委員の先生との連絡を密に取り、円滑に事業を実施できるようにした。 工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 8.2 [課題] 3回の会議はすべて、カナダ・韓国派遣前なので、事業終了後の総括をする機会があっても良い。
②参加生徒に事前研修会の実施 【比率: 10%】	・カナダ…派遣前2回、派遣後1回の語学研修等実施 ・韓国…受入前1回、派遣前4回の語学研修等実施 事前研修により、訪問国の文化や言語を学び、参加者間の交流を図る。	事前に訪問国の文化や言語を学習することは当然必要である。また、事前研修を通して、学校及び鹿嶋市の代表としての自覚を持たせる必要がある。	当初の予定回数の研修に加え、カナダ派遣生徒と韓国派遣生徒を集め、合同研修会を12月に実施した。 [目標達成度] 当初の予定にプラスして合同の事後研修を実施した。 評価: A	リーダー、サブリーダーを中心に学生間で連帯感が生まれた。また、研修を通して、語学に更なる興味を持ち、現地でも積極的にスピーキングする様子が見られた。 施策の有効性評価: A	・韓国語の語学研修では、西帰浦市へ派遣していた職員が講師を担当し、経験を活かすことが出来た。 ・英語の語学研修では、カナダ人講師を招き、出発前にネイティブの感覚を身に付けさせた。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 10 [課題] 研修会の日程調整について、生徒が所属している部活動によっては、大会や練習と重なるので配慮が必要である。
③姉妹都市韓国西帰浦市との相互交流事業の実施 【比率: 35%】	市内に住所がある中学2年生を対象に、3泊4日の日程でホームステイを含む、受入と派遣の相互交流を実施し、国際人としての感覚を養う。 ・定員20名	日本や鹿嶋の風土、歴史、文化などを再認識するのは、地元及び異国両方での国際交流は効果的である。	6月15~18日に受入実施。10月25日~28日に派遣実施。 参加者18名 [目標達成度] 当初の予定通り事業を実施した。 評価: B	受入時には、生徒だけでなく、保護者の積極的な協力が見られ、親子間で国際交流を考えきっかけとなった。また、韓国の参加生徒は英語が堪能な生徒が参加しているため、日本の生徒は英語の重要性に改めて気づきかけとなった。 施策の有効性評価: A	毎年、西帰浦市派遣時には、歓迎の御礼として参加生徒による「歌のプレゼント」を行っている。いつもは日本語で歌っていたが、今回は初の試みとして、日本の歌を韓国語で歌った。現地関係者から絶賛され、生徒達もより韓国語に興味を持つことが出来た。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 32 [課題] 参加者数の定数確保。参加定数20名に対し、18名の応募だった。参加校にバラツキが見られ、高松中・平井中は参加者がいなかった。
④カナダバンクーバーへの派遣事業の実施 【比率: 35%】	市内に住所がある中学3年生を対象に9泊11日の日程でホームステイを実施し、国際人としての感覚を養う。 ・定員12名	一定期間、異国でのホームステイを経験することは、国際感覚を育むことに繋がる。	8月1日~11日に派遣実施。生徒達は各家庭に9日間ホームステイをした。 参加者12名 [目標達成度] 当初の予定通り事業を実施した。 評価: B	ホームステイ9泊は生徒達にとって貴重な体験となった。出発前は自身の英語力に自信を持っていた生徒も、自分なりの課題がたくさん見つかり、より勉学に励むきっかけとなった。 施策の有効性評価: A	派遣事業終了後に保護者アンケートを実施した。「独立心が芽生えた」など、概ね好意的な意見をいただいた。次年度事業へ活かすため、現地学生との交流時間の確保など反省点をまとめ、課題を整理した。 工夫・改善取組評価: A	個別事業実績評価点: 32 [課題] 申込者多数の場合の参加生徒の選抜方法の工夫が必要となっている。
⑤報告書の作成 【比率: 10%】	事業参加生徒及び引率者の感想をまとめた報告書を作成し、3月末日までに関係者に配付することで、記録を残すと共に、事業の周知を図る。	中学生のうちから海外でホームステイを経験するということは、貴重な経験である。それを記録として残すことで、本人だけに留まらず、次の世代に繋げることが出来る。	予定通り3月末までに報告書を作成し関係者に配付した。 [目標達成度] 遅滞無く作成・配付を行った。 評価: B	報告書を作成することで、目に映る記録として残すことができ、次年度への事業の周知に繋がった。 施策の有効性評価: A	参加生徒及び関係者に配付した他、図書館や公民館にも設置し、事業の周知を行った。 工夫・改善取組評価: B	個別事業実績評価点: 8.2 [課題] 卒業式までに配付出来なかったため、早期に作成に取り掛かる必要がある。

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	90.1	A:合計点数が80点以上 B:合計点数が65点以上80点未満 C:合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 平成25年度から中学校3年生のカナダ派遣事業が開始され、中学生の国際交流事業は韓国とカナダの二カ国となった。参加生徒は韓国・西帰浦市が中学2年生18人、カナダが中学3年生12人であった。					
	継続・休止の理由	継続	理由	海外の都市との相互交流を実施している自治体は県内でも少ない。また、学んできた英語を活かせる貴重な機会である。			
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 韓国・西帰浦市とは平成25年度で姉妹都市締結10周年を数え、交流事業は新型インフルエンザの影響で中止となった平成21年度を除いて、平成16年度から毎年行い、参加定数以上の応募者があった。しかし、平成25年度は事業開始以来初めての定数割れとなった。国家間の関係悪化が原因の全てではないが、民間の交流に影響がでないように、事業の目的・主旨を保護者及び生徒に伝え、課題の解決を図る必要がある。					
	改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 事業を周知し、今後も継続するためには、事業の目的・主旨を次の世代に伝えることが必要と考えます。報告書や、FMかしまでも参加生徒の声を伝えているが、事業へ関心を持つ中学生の裾野が広がっていくように、周知を改善していく。また、事業に参加しなかった大多数の生徒が無関係にならないように、報告会等を通じて貴重な体験談を共有するようにする(鹿島中実施)。					